

協同クリエーション

サッポロビールのわくわくブルワリーオリジナルビール企画にHP Indigo WS6000 デジタル印刷機を採用



概要

業種：ラベル・包装

会社名：株式会社 協同クリエーション

本社：東京

ウェブサイト：kyodo-pro.co.jp

株式会社 協同クリエーション

会社名：サッポロビール株式会社

本社：東京

ウェブサイト：sapporobeer.jp

課題

- ・サッポロビールは、ウェブで自由にカスタマイズできるオリジナルラベルビールを提供することで、消費者に新しい感動を与え、ビールの需要を喚起したいと考えた。
- ・協同クリエーションは、小ロット印刷と高品質出力を兼ね備えるデジタル印刷機と高いカスタマイズ性を持つウェブ・トゥ・プリントプラットフォームが必要だと考えた。

解決策

- ・協同クリエーションは、HP Indigo デジタル印刷と独自開発を加えたウェブ・トゥ・プリントプラットフォームを併用することで、消費者の多様なニーズに応える仕組みを実現した。

結果

- ・HP Indigo は、サッポロビールが求める小ロット対応と高品質印刷の提供を両立した。
- ・HP Indigoは、日本を代表する企業のひとつであるサッポロビールの大型プロジェクトの規模に耐えうる生産能力と信頼性を確保できた。
- ・協同クリエーションのウェブ・トゥ・プリントプラットフォームは、様々なカスタマイズ機能を提供するだけでなく、高い解像度の画像データから最高品質のラベルの生産を可能とし、お客様の多様なニーズへの対応を実現した
- ・サッポロビールのわくわくブルワリー商品は、予想を大きく上回る反響があり、HP Indigoの可変印刷を活用した拡張企画の展開が進んでいる。



「HP Indigo

WS6000デジタル印刷機とウェブ・トゥ・プリントプラットフォームを併用することでお客様のニーズの多様化に応えることができ、従来は実現できなかったB to Cビジネスへと展開し始めています」.

— 協同クリエーション
立石昌紀代表取締役



サッポロビールの設立は1876年。日本のビール業界全体の課題として、人口の緩やかな減少に伴うビールの総需要をいかに喚起するか、またその中でサッポロビールは自社のブランドをいかに差別化するかを模索していた。ビール好きなお客様だけではなく、普段ビールを飲まないお客様に対しても、新しい感動を与えることでよりビールに親しんでもらうような販売キャンペーンを展開した。

サッポロビールのウェブ限定の通販サイト、わくわくブルワリーにアクセスすれば、写真や個人的なメッセージを加え、ビールの味やボトルの色を選び、オリジナルラベルを作ることができる。

サッポロビール、デジタルマーケティング室の鈴木雄大マネジャーは、「お客様がデザインする世界に一つしかないビールをパソコンから購入できる仕組みを提供するために、わずか6枚という少量ラベルを高い品質で生産できる印刷機を見つけるのは至難の業で、とても苦労しました」と述べる。

協同制作は1968年の創業以来、日本の飲料メーカーを中心に、印刷事業を核としてセールスプロモーションの企画から自動販売機の見本の製作に至る様々なサービスを提供している。その協同制作グループとして、デジタル印刷に特化したサービスを提供する協同クリエーションを設立した。

協同クリエーション立石昌紀代表取締役は、「協同制作のビジネスはB to Bを軸としているのに対し、協同クリエーションは主にB to Cビジネスをメインとし、お客様のニーズの多様化に応えるべく、デジタル印刷を活用した多品種小ロット、高品質、短納期で商品をお届けするサービスを展開する」と話す。

鈴木マネジャーは、「協同クリエーション様によるHP Indigo WS6000 デジタル印刷機を活用したオリジナルラベル製作の提案をいただき、その現物を見たときに、多品種小ロットへの対応に満足するだけでなく、その高い印刷品質に対し、これならば企画を実現できるという確信を得た」と話す。

お客様が求める品質、スピード、カスタマイズ性

2011年、協同クリエーションは、お客様のニーズの多様化に応えるべく、HP Indigo WS6000デジタル印刷機を導入することに加え、ウェブ・トゥ・プリントプラットフォームを自社にて独自開発を行った。これにより、ウェブを介してお客様がカスタマイズした独自のデザインを、高い品質を維持した上で出力するサービスの提供が可能になった。

立石代表は、「デジタル印刷を活用した事業を立ち上げるために、様々な印刷機を見てきましたが、その中でも最も品質の高かったHP Indigo WS6000デジタル印刷機を選びました。そのおかげで、お客様の求める品質とスピードにお応えでき、さらに当社が独自に開発したウェブ・トゥ・プリントプラットフォームと組み合わせることで、B to Cへのビジネスの展開を実現しました」と話す。

オリジナルボトル

わくわくブルワリープロジェクトは、HP Indigo WS6000 デジタル印刷機の強みを効果的に活用した一例である。

協同クリエーションの佐藤俊範セールスマネジャーは、「重要な点は、消費者がウェブでカスタマイズしたオリジナルラベルをボタンひとつで注文でき、それが印刷機に送信される仕組みを構築できたことでした。そしてHP Indigo WS6000デジタル印刷機の強みである、妥協なき印刷品質と高い生産性を最大限に活用でき、日本を代表するサッポロビールの大型プロジェクトの規模に耐えうる生産能力と信頼性を確保できた」と話す。

サッポロビールはHP Indigo WS6000デジタル印刷機が持つ機能をフルに活用すべく、様々な新しい企画へと展開を続けている。

鈴木マネジャーは、「HP Indigo の可变印刷の特徴を活用することで、1箱12本入りの商品に対し、全て異なるラベルで販売することも可能になり、その一つの例として、2013年春に、“東北の桜 十二景”という製品を生産しました。それぞれ様々な特徴を持つ東北の桜の名所をラベルに表現しました。このような商品を今後さらに拡大させていこうと考えています」と話す。

広がる市場機会

現在、協同クリエーションはB to Cビジネスをメインとした事業拡大を視野に置いている。その際、重要な役割を果たすのがHP Indigo WS6000デジタル印刷機とウェブ・トゥ・プリントプラットフォームの併用である。

協同クリエーションの石橋競テクニカルマネジャーは、「私たちがウェブ・トゥ・プリントプラットフォームを開発した一つの理由は、アトムの世界とビットの世界を融合することによって、新しい商品を世の中に生み出したいと考えていたからです。ウェブの持つカスタマイズ性に、デジタルデータからダイレクトに出力できるHP Indigo デジタル印刷機の強みを加え、高い解像度の画像データから最高品質のラベルの生産を可能とした独自技術を組み合わせることで、お客様の多様なニーズへの対応を実現した」と話す。

立石代表は、「今後、当社のウェブ・トゥ・プリントプラットフォームの活用を強化し、飲料分野に限らず、様々な分野に展開しビジネスを成長していきたいと考えています。そのためには、HPからの技術的なサポートのみならず、ビジネス開発の面においても様々なアイデアを共有し、ともに成長できるように努めていきたい」と話す。

鈴木マネジャーは、「わくわくブルワリーのビールはプレゼントとして理想的です。誕生日、結婚式、出産祝い等、様々なお祝い事での活用シーンを提案し、この商品を通じてお客様に感動をお届けしたいと考えています。昨年秋にスタートさせた本企画は、予想を大きく超える反響をいただきました。昨年の実績については、当初の計画の約2倍の注文をいただきました。今年についてもその勢いを加速させるべく様々な取組にチャレンジしています」と話す。



Get connected.
hp.com/go/graphicarts

Share with colleagues.



記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。
記載事項は2013年6月現在のものです。本カタログに記載されている情報は取材時におけるものであ
閲覧される時点で変更されている可能性があります。予めご了承下さい。
©Copyright 2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P. 日本ヒューレット・パッカード株式会社

〒136-8711 東京都江東区大島2丁目2番1号

4AA4-7377JPN, July 2013

